Creative Enzymes®

ネイティブ豚アデノシン5'-トリホスファターゼ

Cat. No. NATE-0089

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	ATPアーゼは、ATPをADPと遊離リン酸イオンに分解する触媒作用を持つ酵素の一種です。この脱リン酸化反□はエネルギーを放出し、酵素は（ほとんどの場合）このエネルギーを利用して、他の化学反□を□動します。これらの反□は、そうでなければ発生しないものです。このプロセスは、知られているすべての生命形態で広く使用されています。そのような酵素の中には、膜内に固定された膜タンパク質（生物膜内にアンカーされているもの）もあり、通常は濃度勾配に逆らって溶質を膜を越えて移動させます。これらは膜貫通ATPアーゼと呼ばれます。
用途	ATPaseはATPから無機リンを解放するために使用されます。豚の大脳皮質由来のATPaseは、Na/K-ATPase活性の阻害アッセイに使用されています。
別名	ATPホスホヒドロラーゼ; ATPアーゼ; アデノシン5'-トリフォスファターゼ; EC 3.6.1.3; アデニルピロリン酸アーゼ; ATPモノホスファターゼ; トリフォスファターゼ; SV40 T抗原; アデノシン5'-トリフォスファターゼ; ATP加水分解酵素、複合体V（ミトコンドリア電子輸送）; (Ca2+ + Mg2+)-ATPアーゼ; HCO3−-ATPアーゼ; アデノシン三リン酸アーゼ

製品情報

種	豚の
由来	豚の大脳皮質
形態	90%のスクロース、0.4%のEDTA Na4、0.06%のNaClを含む凍結乾燥粉末
EC番号	EC 3.6.1.3
CAS登□番号	9000-83-3
活性	> 0.3 ユニット/mg タンパク質
代謝□路	心筋細胞におけるアドレナリン作動性シグナル伝達、特定の生物体におけるバイオシステム; アルドステロン調節によるナトリウム再吸収、保存されたバイオシステム; 心筋収縮、保存されたバイオシステム; アルドステロン調節によるナトリウム再吸収、保存されたバイオシステム; 心筋収縮、特定の生物体におけるバイオシステム; 内分泌およびその他の因子によるカルシウム再吸収調節、保存されたバイオシステム
機能	ATP結合; カリウムイオン結合; ナトリウムイオン結合; ATPase活性化因子活性; タンパク質結合; ナトリウム:カリウム交換ATPase活性
単位定義	1ユニットは、37°CでpH 7.8の条件下でNa+、K+、およびMg2+の存在下でATPから1.0 µmoleの無機リンを□分放出します。

保管・発送情報

保存方法	−20°C